

問1 藤原道長の娘である彰子が一条天皇のきさきとなり、その間に生まれた後一条天皇が即位した例や、平清盛の娘である徳子が高倉天皇のきさきとなり、その間に生まれた安德天皇が即位した例に共通する、政治権力の背景にある立場を何と呼びますか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)

1. 執権 2. 守護代 3. 外戚 4. 管領

問2 平安時代の藤原道長と、平安時代末期の平清盛の権力掌握について述べた次の文のうち、その背景や手法として誤っているものはどれですか。 (2021年 埼玉県公立入試 類似)

1. 平清盛は、武力で政治を支配する一方で、藤原氏と同じように天皇と婚姻関係を結ぶことで政権の正当性を得ようとした。 2. 藤原道長も平清盛も、天皇が位を譲った後の「上皇」として政治を行うことで、摂政や関白の権限を無力化させた。 3. 藤原氏や平氏が外戚として政治を行ったのは、天皇が幼少の際などに「摂政」や「関白」として補佐する仕組みがあったからである。 4. 藤原道長は、自分の娘たちを次々と天皇の后に入れることで、複数の天皇の「外戚」として権力を独占した。

問3 平安時代に、漢字を書き崩したり、その一部をとったりすることで工夫され、日本語の発音を書き表しやすくするために作られた文字を何といいますか。 (2023年 群馬県公立入試 類似)

1. ハングル 2. かな文字 3. 万葉仮名 4. アルファベット

問4 平安時代後期、白河天皇は天皇の位を譲って上皇となった後も、それまで有力貴族が独占していた政治上の実権を自らの手に取り戻そうとしました。このように、上皇が摂政や関白の力を抑えて直接政治を行う体制を何といいますか。 (2024年 愛知県公立入試 類似)

1. 摂関政治 2. 武家政治 3. 院政 4. 律令政治

問5 藤原道長や藤原頼通が、約100年間にわたって政治の実権を握り続けることができた理由を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 福岡県公立入試 類似)

1. 有力な武士団を組織し、武力によって朝廷から独立した政権を樹立したため。 2. 娘を天皇のきさきとし、生まれた子を天皇に即位させて、その母方の親戚として実権を握ったため。 3. 唐の制度にならって律令を整備し、中央集権的な官僚機構を確立したため。 4. 位を退いて上皇となり、天皇に代わって「院」で政治の決定を行ったため。

問6 平安時代中期、摂政や関白が政治の実権を握っていた時期に、清少納言によって執筆された作品について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)

1. 宮中での生活や四季の自然の美しさを、鋭い感性で記述した日本最古の随筆である。 2. 鎌倉時代末期に、吉田兼好が自然への観察や人間生活への洞察を記した随筆である。 3. 光源氏を主人公として、貴族社会の栄華や恋愛模様を描いた長編の物語である。 4. 武士の台頭による社会の混乱を背景に、鴨長明が世の無常を綴った随筆である。

問7 平安時代中期、藤原道長や頼通の親子が政治の実権を握っていた時期の体制について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)

1. 地方の有力な武士と養子縁組を繰り返して、武力による裏付けをもって朝廷の役職を独占する武家政治。 2. 天皇との親戚関係を一切持たず、実力主義で選ばれた官僚たちが合議によって政治を行う律令政治。 3. 天皇が位を譲って上皇となり、天皇の父方の親戚として実権を握りながら政治を行う院政。 4. 自身の娘を天皇の后とし、その子供を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の親戚として政治を行う摂関政治。

問8 平氏政権が、かつての藤原氏が行った摂関政治と同様の手法を用いて権力を強めた具体的な方法について、最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 福岡県公立入試 類似)

1. 太政大臣として朝廷の最高職に就くだけでなく、西日本各地に守護や地頭を派遣して地方の年貢を直接管理した。 2. 院政を行っていた上皇を幽閉し、天皇の教育係となることで、次期天皇の指名権を独占した。 3. 独自の軍役規定を設け、全国の武士に忠誠を誓わせることで、軍事力に基づいた専制政治を確立した。 4. 自分の娘を天皇のきさき(后)とし、その間に生まれた子を天皇に立てることで、自らが外戚となって政治を動かした。

問9 平安時代に藤原氏が摂政や関白の職に就き、政治の実権を握り続けた仕組みについて、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)

1. 全国の公地をすべて藤原氏の私有地として没収し、経済的な基盤を独占することで権力を確立した。 2. 天皇の位そのものを藤原氏が世襲する制度を確立し、一族の中から天皇を輩出し続けた。 3. 自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた子を天皇の位につけることで、天皇との間に外戚関係を築いた。 4. 有力な武士団と結びつき、武力によって天皇を威圧することで政治の主導権を確保した。

問10 飛鳥時代に聖徳太子が仏教を重んじて以来、日本の宗教と文化は密接に関わりながら変遷してきました。平安時代初期に遣唐使とともに唐へ渡り、帰国後に比叡山に延暦寺を建立して天台宗を広めた人物は誰ですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)

1. 空海 2. 道昭 3. 最澄 4. 行基

問11 保元の乱の背景から結果に至るまでの流れをまとめた資料において、乱が起こる前の政治状況を説明する記述として、空欄に当てはまる内容を選びなさい。 (2022年 鳥根県公立入試 類似)

1. 平氏が太政大臣の地位に就き、一族で官職を独占する専横的な政治を行っていた。 2. 地方の有力な武士たちが、朝廷の重税に反対して一斉に武装蜂起していた。 3. 崇徳上皇と後白河天皇が、政治の主導権である院政の実権をめぐる対立していた。 4. 鎌倉幕府の成立により、全国の武士を統制するための守護・地頭が設置されていた。

問12 岩手県平泉を拠点として平安時代末期に栄えた奥州藤原氏が、極楽浄土を地上に表現するために建立した建築物は何ですか。のちに松尾芭蕉が訪れ、紀行文の中でその美しさを記したことでも知られる名称を答えなさい。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)

1. 中尊寺金堂 2. 毛越寺 3. 平等院鳳凰堂 4. 瑞巖寺

問13 平安時代に藤原氏が長期にわたって政治の実権を維持できた仕組みについて、その理由として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 天皇を退位させた後に上皇として院庁を開き、天皇に代わって政治の決定を下す体制を整えたため。 2. 地方の荘園の持ち主から土地の寄進を受け、その管理権を独占することで国家の財政をすべて掌握したため。 3. 自分の娘を天皇の妃とし、その子供を次の天皇に立てることで、母方の祖父や親戚として政治を補佐したため。 4. 地方の有力な武士団を直接組織し、反対する貴族や寺社を軍事的な力で抑え込んだため。